

千葉市感染症発生動向調査情報

2021年 第14週 (4/5-4/11) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		14週	13週	12週	11週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	17	17	17	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	27	27	27	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	4/5-4/11	3/29-4/4	3/22-3/28	3/15-3/21	3/29-4/4
			14週	13週	12週	11週	13週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	1
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
	咽頭結膜熱		0	1	2	0	7
			0.00	0.06	0.12	0.00	0.05
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		13	2	9	1	51
			0.76	0.12	0.53	0.06	0.39
	感染性胃腸炎		16	29	44	36	188
			0.94	1.71	2.59	2.00	1.44
	水痘		6	2	2	0	18
			0.35	0.12	0.12	0.00	0.14
眼科	手足口病		0	0	1	0	0
			0.00	0.00	0.06	0.00	0.00
	伝染性紅斑		0	1	0	1	3
			0.00	0.06	0.00	0.06	0.02
	突発性発しん	◎	16	7	6	3	46
			0.94	0.41	0.35	0.17	0.35
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	流行性耳下腺炎		0	0	0	1	3
			0.00	0.00	0.00	0.06	0.02
基幹定点	インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	0	0	0	0	1
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	眼科	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	眼科	流行性角結膜炎	1	1	0	0	5
			0.20	0.20	0.00	0.00	0.15
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	1
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(97件) ※新型コロナウイルス感染症88件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	IGRA検査	ウイルス性肝炎	男性	30歳代	血清IgM HBc抗体の検出
結核	男性	50歳代	IGRA検査	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	10歳未満	病原体の分離・同定
結核	男性	60歳代	病原体の分離・同定等	梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出
結核	男性	70歳代	病原体等の検出等	梅毒	男性	50歳代	血清抗体の検出
結核	女性	30歳代	IGRA検査	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代~90歳代	病原体遺伝子の検出等

・第14週は、結核5件(43)、ウイルス性肝炎1件(2)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(4)、梅毒2件(14)、新型コロナウイルス感染症88件(3478)の発生届があった。

※ ()内は2021年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第14週のコメント

＜突発性発しん＞前週より増加し、過去10年の同時期と比べると最多となった。

■ トピック ■

<突発性発しん>

全国の第13週時点は前週に引き続き増加し0.38となりました。過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、佐賀県、熊本県及び宮城県の順に多く報告されています。千葉県は0.35で全国レベルと比べるとほぼ平均レベルとなっています。

千葉市では年頭に高めの水準で推移した後、低い水準で推移していましたが、第14週は前週より大幅に増加し0.94となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。年齢階級別では1歳の増加が急激となっています。例年の発生動向によると5月から7月にかけて多くなっていることから、今後の動向に注意が必要です。

区別の発生状況は、稲毛区、若葉区、緑区及び美浜区から発生報告があり、美浜区以外での増加が目立ち、若葉区(2.00)が最多で同区の6か月～11か月で最も多く発生報告がありました。

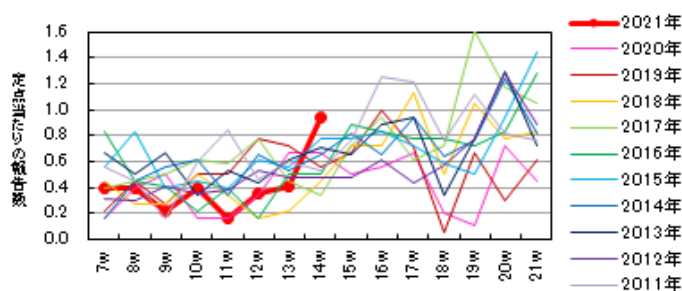
2021年第1週から第14週までの定点医療機関からの発生報告累積数は109件で、男性56.9%(62件)、女性43.1%(47件)となっており、年齢階級別では1歳(52.3%:57件)、2歳(26.6%:29件)、6～11か月(18.3%:20件)の順に多くなっています。

突発性発しんはヒトヘルペスウイルス6型及び7型による感染症で、突然の高熱と解熱前後の発疹を特徴とする、生後4か月ごろから18か月ごろまでの乳幼児に発生する疾患です。

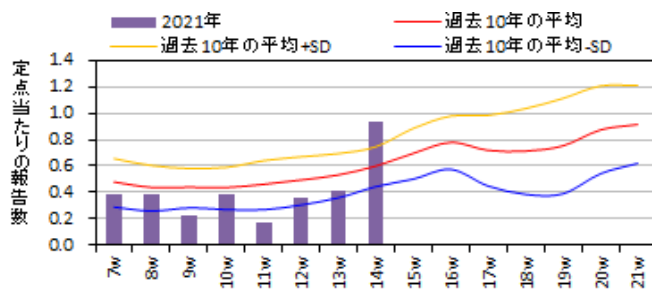
突然、高熱で発症し、不機嫌となり大泉門の膨隆をみることがあります。咽頭部の発赤、特に口蓋垂の両側に強い斑状発赤を認めることがあります。軟便又は下痢を伴うものが多く、発熱は3～4日持続しますが、その後解熱します。

解熱に前後して小さな紅斑や紅色丘疹が出現し、散在性、時に斑状融合性に分布します。発しんは体幹から始まり、上肢、頸部の順に広がりますが、顔面や下肢には少ないです。発疹は1～2日で消えます。脳炎を起こすことがあります。

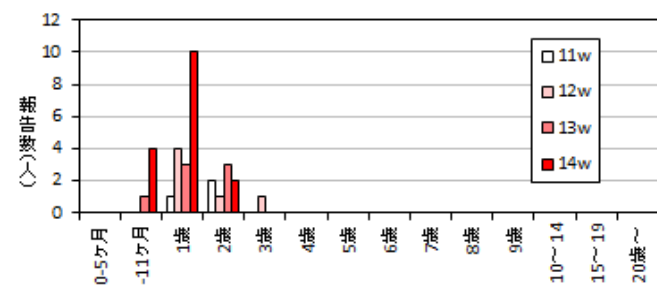
予後は一般に良好で、初感染以降は潜伏感染状態となり、ウイルスは断続的に唾液中から排泄されます。通常予後良好な疾患であることから、特別な予防法や予防接種はありません。



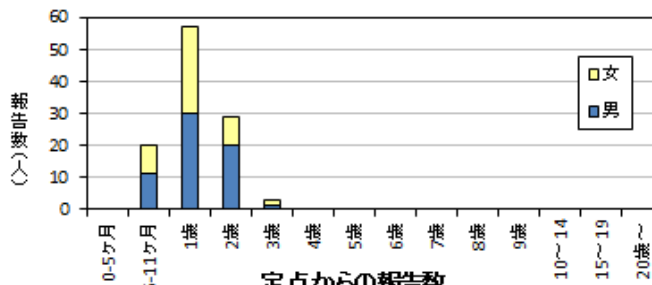
各年の定点当たりの報告数
(千葉市:2011年-2021年 7w-21w)



過去10年間の比較
2021年 7w-21w



定点からの報告数の推移(直近4週分)



定点からの報告数
2021年1w-14w n=109